

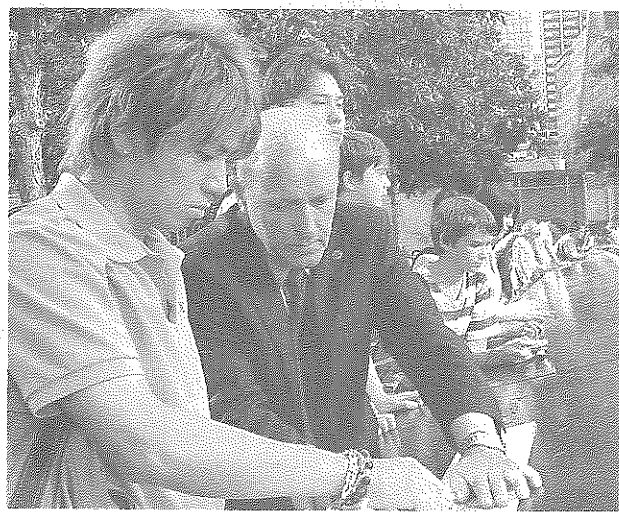
被災学生 テロ遺族と交流 NYのグラウンド・ゼロ

【ニューヨーク共同】東日本大震災で被災した本県など東北三県の学生らが十三日、二〇〇一年の米中核同時テロで崩壊した世界貿易センタービル(WTC)の跡地(グラウンド・ゼロ)を訪れ、テロの遺族をつくる「9・11家族会」のリー・イエールピ会長(六八)らと交流、消防士の息子が殉職した同会長から「全てを失っても笑顔で生きていこう」と励ましを受けた。

一行は、津波で両親、祖母、姉を亡くし今年六月からミシガン州の高校に通う岩手県立大穂高卒の小川彩加さん(二二)と、福島、岩手、宮城出身の大学一年生八人の計九人。教育支援グローバ

ル基金(東京)の支援事業「ビヨンドトゥモロー」と日米両政府の「TOMODAC H.I.イニシアチブ」の協力で、今月七日からハリケーンの被害を受けた南部ニューヨーク州リンズなどを訪れている。

一行はテロの犠牲者全員の名前が周囲の石に彫られている跡地の人工池を見学後、犠牲者の遺族や跡地記念館のボランティアら十数人に被災地のビデオを見せた。小川さんは英語で「亡くなった両親のためにできるのは、自分が幸せになることだと思う」と心境を話した。



世界貿易センタービル跡地で、石に彫られた日本人犠牲者の名前をたどる二本松市出身の菅野翼さん(左)と「9・11家族会」のリー・イエールピ会長(右)13日、ニューヨーク(共同)